

2023 年度

ニチイキッズあみ保育室 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2024 年 1 月 9 日（火）～1 月 31 日（水）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2024年1月31日（水）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	“おもいっきり”体験をたくさん経験できるよう、野菜栽培からの野菜スタンプや夏祭りでのすいか割り・もちつきごっこなど、新しいイベントを計画実施した。子どもたちの印象に残るイベントを提供できた。
子どもの発達援助	子どもの興味関心を高めるための働きかけやしかけを意識していったが、安全面（誤飲）から、自然物を使った製作物を取り入れることが難しかった。安全に配慮しながら、自然物や自然現象を保育に取り入れられる工夫を検討していく。
保護者に対する支援	保護者参加の行事として、年に2回の保育参観と保育参加を実施した。それぞれの家庭の様子や同じクラスの子どものことを知るきっかけとはなったが、保護者同士の繋がりを深めるのは難しかった。また、保護者支援として、保育参加後の個人面談を検討していく。
保育を支える組織的基盤	今年度は、子ども人数の変動に応じて、異年齢保育で過ごす機会が増えた。異年齢保育で過ごす日と年齢ごとに活動する日を設け、それぞれにおける子どもたちの成長を促していくことができた。課題が生じたときは、園全体で話し合い、解決に向けてみんなで取り組んだ。引き続き、職員会議やミーティングを通して話し合いをしていく。

総評
今年度はコロナ以降、久しぶりの保護者参加行事を実施した。保育参観はクラスごとに時間帯を分けて実施し、保育参加は人数制限を設けて実施したことで、保護者の協力のもと感染対策を講じながら実現することができた。保護者同士の繋がりがや個別支援への課題が残るので、次年度に向けて検討していく。異年齢での関わりが増えたことで、子ども同士の興味関心は高まったが、年齢ごとの活動の減少により、それぞれに合った遊びの発展方法が難しかった。保育活動のバランスをよく考えていく必要がある。